

祇園之洲砲台跡(市指定文化財)(鹿児島市清水町)

薩英戦争で最も被害のあった 薩摩藩の砲台・祇園之洲砲台

1863年の薩英戦争のときには6門の大砲が配備されていました。イギリスの軍艦1艘が砲台前で座礁し、この軍艦の救援のためにイギリス艦隊は祇園之洲砲台に集中砲火を浴びせます。そのため祇園之洲砲台は、最も被害の大きな砲台に。現地には今も長さ約115m、高さ約1.2mの胸壁が残っています。胸壁は、敵の砲撃から兵士や大砲を守るための土塁で、凝灰岩でつくった石垣の外側を盛土で覆って構築されました。のちの発掘調査によって大砲を据えた砲座の痕跡を発見。薩英戦争後に破壊された胸壁を修復したことが明らかとなっています。

「どんどんかごしまの旅」による



祇園之洲砲台・石橋記念公園 総合案内図

鹿児島市の中心を流れる甲突川には、かつて下流から五石橋、新上橋、西田橋、高瀬橋、武之橋という五つの大きな石橋が架かり、「甲突川の五石橋」と呼ばれて市民に親しまれ、市由地の繁栄の象徴として重要な役割を担っていました。この五石橋は、江戸時代末期に、肥後（熊本藩）から招かれた名石工藤永一五郎によって架けられたもので、潤滑な構造を有して定められた薩摩藩の財政改革の成功によって実現した歴史的文化遺産です。しかしながら、平成5年8月9日、市由地中心部の約1万2千坪が浸水するなど大きな被害をもたらした集中豪雨による洪水で、五石橋のうち武之橋と新上橋は流失してしまいました。そこで残った3基は、貴重な歴史的文化遺産として失われかけた歴史遺産を残すため、息による河川改修に合わせて移設して保存することになりました。

移設地先に架けられた石橋の石橋記念公園は、岩永三右衛門が架けた多津アサの石橋が河口近くの未架橋であったことから、五石橋と名をいふゆかりの深い地域です。また、この河口沿岸の土地は、いづれをいふ歴史文化で、高瀬橋と五石橋が架けられた祇園之洲公園には薩英戦争の砲撃跡があり、西田橋が架けられた場所には薩摩藩主島津氏の分家土屋敷などがあった跡であり、五石橋と同時代の潤滑なつくり跡があります。移設された3基は、市の文化財として五石橋を、都が所管する文化財や土木学会等の専門家の指導、助言を仰ぎながら、平成6年から同11年にかけて石橋の復元解体、復元と進め、五石橋の歴史的特長等を伝える記念館も併設する予定です。石橋の数が、一と二と三と四と五と六と七と八と九と十と。今後、この公園が鹿児島市の歴史を知る場のみならず広く市民市民に未だく親しまれることを願っています。

全体配置図

祇園之洲の歴史

甲突川五石橋の諸元

橋名	長さ	幅	高さ	石橋の諸元
武之橋	115m	12m	1.2m	...
新上橋	115m	12m	1.2m	...
五石橋	115m	12m	1.2m	...